

歯周病は全身の健康に影響を及ぼします



「歯周病をなおそう」編著 鴨井久一 著 沼部幸博 より抜粋

歯周病

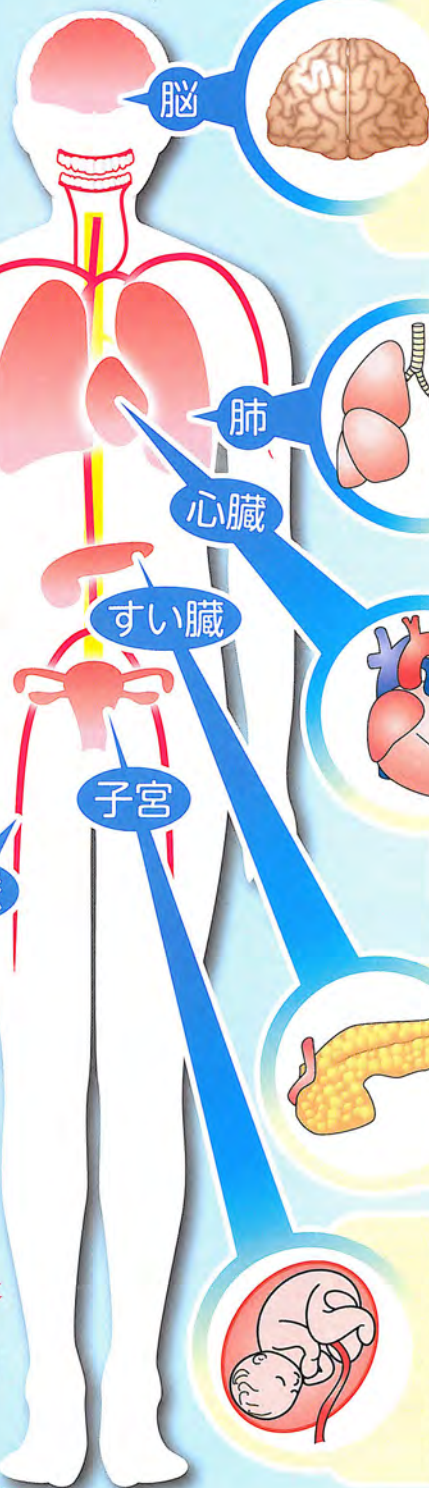
歯周病菌や歯周病の炎症のある場所(歯肉)で作られた成分(ケミカルメディエーター)が体中にひろがって、全身の病気を誘発したり、重症化させることが最近の研究や調査で次々とわかってきました。

動脈硬化

血管に流れ込んだ歯周病菌の一種(ジンジバリス菌)が、血栓形成に関与し血管をせばめることが知られている。



歯周病健診とセルフチェック(自己点検)を心がけましょう



脳梗塞

脳血管の動脈硬化などが原因。脳梗塞のうち、アテローム血栓性脳梗塞は、歯周病菌の一種(ジンジバリス菌)の関与が考えられる。



肺炎

65歳以上の高齢者の直接死亡原因の30%を肺炎が占める。高齢者や要介護高齢者の誤嚥性肺炎の重症化に歯周病菌が関与している。



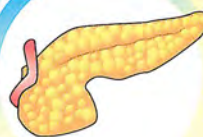
狭心症・心筋梗塞

心臓の冠状動脈の動脈硬化で起こる。アテローム性動脈硬化症の45%からジンジバリス菌が検出されている。歯周病罹患者は、健康人に比べ、2.7倍の高い頻度で心臓発作を起こしている(アメリカ)。



糖尿病

歯周病の組織から分泌される成分(TNF- α)が、血糖値を下げるホルモン「インスリン」の働きをさまたげる。



早期低体重児出産

歯周病の組織から分泌される成分(インターロイキンなど)が子宮筋を過剰に収縮させる。早期低体重児出産に対して5.28倍の危険率がある。



日本の15~19歳の若者の65%、20~29歳の75%に歯周病の症状がみられ、30歳以上になると80%以上の方が歯周病になっています。(厚生省平成17年度歯周疾患実態調査)
歯周病対策は、若いうちからの予防と、早期発見・早期治療が重要です。